

# 知床エコツーリズム推進モデル事業

## 平成 18 年度事業報告（概要版）

### <環境省事業>

#### 1. 知床型エコツーリズムのあり方検討

##### 【推進協議会の開催】

斜里・羅臼町内の幅広い分野の団体からなる「知床エコツーリズム推進協議会」を開催し、地域からの意見を汲み上げながら事業全体の調整、検討を行った。また、随時関係行政機関による事務局会議を開催し、事業の進捗状況等についての確認を行った。

##### ■第 1 回知床エコツーリズム推進協議会 2006 年 6 月 6 日（於：ウトロ漁村センター）

今年度の事業計画、予算案の承認を行った。

また、モデル事業終了後、平成 19 年度以降の知床におけるエコツーリズム推進を担う体制、事業内容などについて検討を行い、引き続き地域の様々な立場からの意見を集約してエコツーリズムの推進方策について協議する場として協議会を設置する方向性で同意を得た。さらに、地域に必要な事業は何か改めて考え直すべき、などの意見が出された。今後、この件に関してはガイドラインワーキング内で検討を進めることとする。

##### ■第 2 回知床エコツーリズム推進協議会 2006 年 12 月 11 日（於：羅臼町商工会館）

11 月までに実施された取組みについて、今年度の事業中間報告を行った。

また、これまでのワーキングでの検討によって作成された「知床エコツーリズムガイドライン（案）」及び「知床エコツーリズム推進実施計画（案）」の検討を行った。

##### 【ガイドライン・推進実施計画の検討・策定】

昨年度より引き続き、ワーキンググループ内にて「知床エコツーリズムガイドライン」の検討を行った。また今年度からは、「知床エコツーリズム推進実施計画」の検討にも入り、来年度以降の実施体制、事業計画などの検討を行っている。

##### ■第 1 回ガイドラインワーキング 2006 年 5 月 12 日（於：ウトロ漁村センター）

夏季にガイドライン（案）の試行と利用者へのアンケートを実施し、結果を今後の検討に反映させることとした。

昨年の検討で保留になっていたアクティビティ別ガイドラインについては、現在先行して検討を進めている知床五湖、羅臼湖などの緊急性が高い項目が完成してから検討に入ることとする。

モデル事業終了後、平成 19 年度以降のエコツーリズム推進体制について、両町観光協会、知床ガイド協議会、知床財団が中心となりつつ、地域全体で取り組む体制を整備することとした。今後、本ワーキングにて、事業内容の検討や、優先項目を整理していく。

### ■第 2 回ガイドラインワーキング 2006 年 6 月 29 日 （於：羅臼町役場）

夏季に実施するガイドラインに対するエコツアー参加者へのアンケートの内容について検討した。

また、平成 19 年度以降に知床におけるエコツーリズム推進に必要な事業について検討を行い、知床エコツーリズム・ガイドラインの運用、統一されたインフォメーション機能の構築、観光収入を環境保全に還元するシステムの構築、などが特に重要で、優先順位が高いことが確認された。秋以降、推進実施計画の検討と共に、実施体制や財源の確保などについてもより詳細な検討を行う。

### ■第 3 回ガイドラインワーキング 2006 年 10 月 6 日 （於：ウトロ漁村センター）

今年度夏期に実施した、ガイドラインアンケート中間報告を行い、ガイドライン（案）の検討を行った。アンケートの中間報告は、270 件回収時点でのフリー回答に関する報告を行い、今後の利用のあり方への参考とする。また、知床エコツーリズム推進実施計画（案）の検討に入ることとなり、来年度以降の推進実施体制のあり方と、財源確保についての具体的な議論となった。

### ■第 4 回ガイドラインワーキング 2006 年 10 月 23 日 （於：ウトロ漁村センター）

ガイドラインのリリース形式・方法についての検討を行い、今年度は現在検討中のガイドライン（案）の形で詳細なルールを完成させ、ガイド・観光関係者への周知を優先させる。利用者への普及については、来年度以降検討することとなった。また、「知床エコツーリズム推進実施計画（案）」については、来年度以降の具体的な実施計画（案）の内容についての検討を行った。

### ■第 5 回ガイドラインワーキング 2006 年 11 月 10 日 （於：羅臼町役場）

夏期に実施した、ガイドラインアンケートの集計結果が出揃い、その説明を行った。こ

これらのアンケート結果と、ガイド協議会や羅臼・ウトロ地域への説明会で頂いた意見をまとめた上で、次のワーキングにて再度ガイドラインの見直しを行うこととなった。また、「知床エコツーリズム推進実施計画（案）」については、説明会へ向けて細かい語句の修正などを行った。

■第6回ガイドラインワーキング 2006年11月29日（於：ゆめホール知床）

知床エコツーリズム推進実施計画（案）、知床エコツーリズムガイドライン（案）の地域向け説明会で参加者から出された意見に対して、作成中の案にどのように反映するかについての検討を行い、修正を行った。

■第7回ガイドラインワーキング 2007年2月19日（於：斜里町農業振興センター）

前回に引き続き、知床エコツーリズム推進実施計画（案）、知床エコツーリズムガイドライン（案）に対して地域向け説明会、第2回推進協議会で出された意見についての検討を行い、ワーキングとして3月の第3回推進協議会に提出し承認を諮る最終版を作成した。

【地域向け説明会】

ワーキングで検討した「知床エコツーリズム推進実施計画（案）」、「知床エコツーリズムガイドライン（案）」について、主に地域のガイド、観光関係者を対象とした説明会を計3回実施し、意見収集を行った。収集した意見については、今後のワーキングでの検討に反映することとした。

■ガイド向け説明会 2006年11月7日（於：ウトロ漁村センター）

■地域向け説明会（羅臼） 2006年11月16日（於：羅臼町公民館）

■地域向け説明会（ウトロ） 2006年11月19日（於：ウトロ漁村センター）

【知床エコツーリズムガイドラインの広報等】

■ガイドラインに対する利用者アンケートの実施（8～10月）

検討中の「知床エコツーリズムガイドライン」に対する利用者の評価を調べるため、実際のガイドツアー参加者を対象にアンケート調査を実施した。

ガイド事業者の協力を得て2000通を配布し、591通回収した。アンケート結果、利用者からの意見等は今後のワーキングでの検討に反映させることとした。

## ■ガイドラインの普及・広報活動（2～3月）

検討中の「知床エコツアーリズムガイドライン」について紹介したリーフレットをガイドツアー参加者、知床自然センター・羅臼ビジターセンター等の利用者に配布し、知床でのエコツアーリズムに対する取組みをPRした。

## 【その他】

### ■「世界旅行博 2006」への出展 2006年9月22～24日 於：東京ビッグサイト

東京ビッグサイトで行われたJATA（日本旅行業協会）主催の世界旅行博2006に環境省が設置したエコツアーリズム推進のPRのためのブースを知床・白神・屋久島・小笠原の4地区で運営した。業界関係者、一般の来場者に広く知床でのエコツアーリズムへの取り組みをPRすることができた。このように旅行業界全体に、エコツアーリズムという環境に影響を与えずに自然とのふれあいを楽しむことができる旅行スタイルについて周知することが、今後はますます必要であると感じた。



### ■平成18年度エコツアーリズムシンポジウムへの参加

2007年1月29～30日 於：東京 代々木オリンピック公園

環境省主催の「エコツアーリズムシンポジウム」に参加し、知床での取組みについて発表した。全国から集まったモデル地区関係者、行政機関担当者、研究者等と情報交換を行い、連携を深めることができた。



## 2. ガイド技術講習会

エコツアーの中心的役割を担うガイドに対して、ガイド技術・安全管理技術の向上を目的とした講習会を開催した。

### ■第5回ガイド技術講習会

2006年4月16～17日（於 ウトロ漁村センター） 参加者数：24名

講師：北原 大（MFAインストラクター）

新野 和也（MFAインストラクター）

1日目はMFA（Medic First Aid）の救急救命法の実技講習（疾病者の評価法・心配蘇生法・怪我の応急処置など）を行い、2日目は、担架が無い状態で人間を安全に搬送する方法、実際に事故などが起きた状況を想定して救助のシミュレーションを行った。

屋外で活動するガイドにとって、遊歩道・登山道など救急車や救助隊がすぐに到着できない状況下での不慮の事故に備え、このような訓練を継続的に行う必要性を痛切に感じる講習会であった。



■第6回ガイド技術講習会 2007年1月19日（於：ウトロ漁村センター）

①「ガイドの法的立場と責任」 講師：三浦雅生弁護士 参加者数：40名

ガイドとエコツアー参加者との間に生じる契約債務、ガイドの安全確保債務、消費者契約法による規制、事故の際の対応などについての講義を行った。ガイド活動によって生じるガイドの責任・義務に関する法律的な解釈等についてはガイドにとって最も関心が高いところであり、具体的な事例を想定した質問等に弁護士の立場からの有益なアドバイスを頂くことができた。

②「ガイド向けワークショップ

～知床五湖・羅臼湖のガイド利用のあり方についての意見交換～

講師：富岡辰先（日本野鳥の会） 参加者数：23名

知床地区で活動しているガイド事業者を主な対象として、知床五湖や羅臼湖の利用のあり方について話し合うワークショップを開催した。知床の利用のあるべき姿を検討しようという機運が高まる中、最も現場の実態を知る現役ガイドのアイデアを吸い上げる機会の提供とともに、現場を含めた広い枠での意見交換の下地を作ることを目的とした。

「安全性」と「満足度」を高めるアイデアの抽出や、出されたアイデアに対して「利用者」「行政」「観光事業者」の視点から評価するという作業を行い、活発な意見交換が行われた。



### 3. 知床エコツーリズムフォーラムの開催

2007年1月21日（於：ゆめホール知床） 参加者数：78名

「知床で暮らす幸せ 知床を訪れる喜び 観光が結ぶところ」と題し、3カ年のモデル事業のまとめとして地域の内外に向けて知床におけるエコツーリズム推進の取組みと今後の方向性について発信するフォーラムを開催した。

地域のエコツーリズム関係者をパネラーとしたパネルディスカッションでは、モデル事業の振り返りから知床観光が抱える課題について意見交換し、その解決に向けてモデル事業終了後も引き続き地域でエコツーリズムを推進していくという方向性について改めて確認することができた。

#### パネルディスカッション ～知床が目指すエコツーリズムのかたち～

##### ■コーディネーター

寺崎竜雄 （財）日本交通公社

##### ■コメンテーター

茅原裕昭 （財）都市農山漁村活性化機構

##### ■パネラー

上野洋司 知床斜里町観光協会長

辻中義一 知床羅臼町観光協会長

石田一美 羅臼漁業協同組合理事

鈴木謙一 知床オプショナルツアーーズ

また、会場内に地域の漁業者、農業者による地場製品の紹介・販売ブースを設置した。羅臼昆布、海洋深層水、デンプン団子、にんじんジュースなどを参加者が試飲試食できるようにし、知床の地場産業による「食」のPRを行うことで観光と地域産業の連携促進を図った。



## 4. 地域産業と連携したエコツーリズムの展開

### 【知床エコラリーでの情報提供】

一部観光地への利用の集中を緩和し、利用の分散を図るため、新たな観光資源としての地域産業の活用を促進するため、滞在型モデルツアーで企画した、「知床エコラリー」の中で、地域産業を紹介するポイントの紹介を行った。



斜里平野の農業地帯



サケ陸揚げ見学

### 【「流氷の海の漁業見学体験」プログラム】

昨年に引き続き、羅臼のエコツアープログラム「流氷の海の漁業見学体験」を企画・実施した。今年度は羅臼遊漁船組合の主催となり、知床エコツーリズム推進協議会は「後援」という形で広報・準備等で協力を行うことで、地域の自主的な取組みに対して支援を行った。

### 【地域産業講演会の実施】

「番屋宿泊・農家民宿のプログラム化について」

2007年1月20日（於：羅臼町商工会館）参加者数：22名

講師：（財）都市農山漁村交流活性化機構 地域活性化部長 茅原裕昭氏

モデル事業の中でこれまで行ってきた取組みをさらに発展させていくためにはどのような可能性があるのか、また、時代のニーズはどこにあるのか、などを学ぶことができた。講師からは、「プログラムづくりは、対象者に適したものが第1」、「ますます求められるホスピタリティ」、「地域ぐるみで、地域経済を活性化」などの提案があり、この地域での地



域産業を生かしたプログラム作りにも取り入れていかなければならないテーマだと感じた。

## ＜北海道事業＞

### 【通年かつ体験・滞在型観光地づくりを推進する】

体験観光事業者、ホテル・旅館業者、旅行者など関係者の合意のもとに、体験型観光の推進、食の魅力向上、ホスピタリティの充実を図るとともに、環境保全意識の高揚を図りながら、通年かつ体験・滞在型の観光地づくりを進める。

### ○「体験型観光事業者交流会」の開催

体験型観光の受入体制の整備や通年化に向けた事業者間ネットワークの形成を目指し、閑散期・悪天候時メニューの開発、地域全体での受入体制の構築に向けた検討を行う。

- ・実施日時：平成18年12月19日（火）
- ・実施場所：網走総合庁舎 3F 2号会議室（網走市北7条西3丁目）
- ・参集範囲：斜里・網走地域の体験型観光事業者  
各観光協会、市町及び支庁等の行政関係者（オブザーバー）
- ・実施内容：①道内他地域の体験型観光事業者間の連携による取組事例の紹介（富良野地域）  
講師（事例発表者） 小倉 博昭 氏（NPO法人グリーンステージ 理事長）  
②意見交換会（自己紹介や連携テーマ、活動内容）  
③フリー交流会（自由な情報交換、交流）

### ○体験型観光ビジネス交流会」の開催

体験型観光の観光事業者へのPRや両者の連携促進による体験型観光の充実を目指し、ホテル・旅館等との連携方策の検討を行う。

#### 道東4支庁（網走・釧路・十勝・根室）合同開催

- ・実施日時：平成18年11月1日（水）～2日（木）
- ・実施場所：あかん遊久の里 鶴雅（釧路市阿寒町阿寒湖温泉）
- ・参集範囲：道東4支庁管内の体験型観光事業者  
道内外の旅行者・旅行メディア  
各地区観光連盟・観光協会・市町村・支庁等の行政機関
- ・実施内容：第一部 情報交換会（1日）

①体験観光事業者プレゼンテーション（旅行エージェント等に対し個別にプレゼン）

②フリー交流会（体験観光事業者に対し、旅行エージェント等から情報交換）

～参考～（斜里・羅臼参加事業者）

斜里：知床アウトドアガイドセンター、知床山考舎、知床アルパ、NPO SHINRA  
知床ネイチャーオフィス

羅臼：知床ネイチャークルーズ

第二部 体験試乗（2日）

①体験観光メニューを旅行エージェント・メディアが実際に試乗

～参考～（斜里・羅臼実施事業者）

斜里：NPO SHINRA（知床五湖ガイドウォーク）

## ○「食の魅力アップ研究交流会」の開催

地元食材の活用による食の魅力向上を目指し、管内の先行取組事例を検証、成功モデル事例の磨き上げる効果的な手法の検討を行う。

・実施日時：平成19年2月9日（金）

・実施場所：網走セントラルホテル（網走市南2条西3丁目）

・参集範囲：○アドバイザー

浅野 裕紀 氏（株料理王国社代表取締役）

脇屋 友詞 氏（Wakiya一笑美茶樓）

○モニター（試食会のみ参加）

JR北海道「知床冬旅情」試乗会参加者

（道内・外観光エージェント、航空会社、報道・マスコミ各社、JR北海道等）

○地元関係者

新作メニュー開発者（地元飲食店、食品加工業者等）

食材生産者、生産関係団体（漁業協同組合生産組合等）

ホテル・旅館等宿泊事業者 関係市町村・観光協会

・実施内容：（1）試食会

①生産者による試食会提供食材のプレゼンテーション

②新作メニューの試食

（2）

①「地元食材を生かした食のブランド化について」をテーマとした講演

講演：浅野アドバイザー

②浅野・脇屋両アドバイザーと地元関係者による意見交換会

○「おもてなし度実態調査」の実施

観光ホスピタリティの向上を目的に、観光施設等の接客マナー等についてアンケート調査を実施し、調査結果を観光事業者へフィードバックし改善につなげるとともに、優れた取組事例を発掘する。

- ・実施時期：平成18年7月13日（木）～平成19年2月28日（水）
- ・対象者：調査期間中にオホーツク圏域（管内19市町村）を旅行された方
- ・調査内容：宿泊施設や観光施設等の接客態度や施設の内容等を5段階で評価してもらう
- ・調査方法：WEBアンケート（パソコン及び携帯電話）

回答者を対象に毎月抽選でオホーツクの特産品をプレゼントする

○「新たな観光資源（食・体験）PR資料／先駆取組事例集」の作成

交流会等で発掘された新たな体験・食のメニューの商品化を促進するため旅行エージェント向けのPR資料を作成するとともに、先進的な取組事例を他地域へ周知啓発し広域的な取組に促すため、事例集を作成しHP等に掲載する。

- ・完成予定：平成19年3月末

○「知床への道」風景再生事業の実施

知床の世界自然遺産登録による知床への観光客の一極集中を緩和するため、知床へ繋がる広域的な観光地の整備を図る必要がある。

しかし小清水原生花園や涛沸湖周辺では花々の減退が見られることから、地元市町や住民と協働で植生と風景の回復に取り組み、魅力的な観光地を創造するとともに、自然環境保全意識の高揚を図る。

・取り組み状況

知床が世界自然遺産となり、観光客が増加していることから、その緩和対策のために、知床へつながる広域的な観光地整備として、平成17年度から網走国定公園内の網走市北浜地区の地域住民等との協働で行ってきている。

平成18年度も、ヒオウギアヤメ群落の再生のため5月27日（土）に、地元の方々の協力により馬の放牧を行った。

① ヒオウギアヤメ群落の再生事業（網走市北浜地区）

- ・馬の放牧日 平成18年5月27日（土）～11月12日（日）

- ・ 放牧面積 1. 4 5 ha
- ・ 放牧頭数 9頭
- ・ 結果 ヒオウギアヤメの株がしっかりし、花色が濃くなり、放牧による効果があったと考えられる。  
また、観光客も訪れるようになり、知床への観光客の一極集中の緩和に寄与できたものと考えている。

② 害虫駆除（小清水原生花園地区）

- ・ 害虫駆除の実施日  
平成18年6月7日（水）
- ・ 結果  
エゾスカシユリがテングハマキ（蛾）の幼虫に食害を受けている天覧ヶ丘地区で実施し、例年よりも多くの花が咲いたことから改善が見られた。

## 【知床型環境教育プログラムを開発する】

知床世界自然遺産の環境保全と適正利用のため、環境保全意識の高揚を目指し、「知床世界自然遺産候補地管理計画」等に則した環境教育プログラムの検討・作成及び指導者の養成を行うとともに、情報発信を行いながら、地域に根ざした環境教育の推進を図る。

### ○「知床うみ・やま・かわの環境教育検討委員会」の開催

知床にふさわしい環境教育プログラムのモデルとして、知床の自然を題材としたプログラムを検討・作成するとともに、環境教育推進体制のあり方を検討するため、教育関係者やアウトドアガイドなど、有識者による検討委員会を開催する。

①第1回 1月19日開催済み

内容：①平成18年度事業概要

②プログラムの基本的な考え方

③プログラム（案）（冬のプログラムのみ）

結果：より多くの子供たちに伝えるためには、学校教育で行うことが有効であることから、教員向けのプログラムとする。

②第2回 3月28日予定

### ○「環境教育指導者養成研修会」の開催

本事業で検討・作成した環境教育プログラムの実践及びその結果に基づく改良を図るため、知床周辺地域の小・中・高校教員を対象とする研修会を開催する。

開催時期 平成19年3月10日（土）

開催場所 羅臼町

対 象 知床周辺地域の小・中・高校教員

内 容 スノーシューによるフィールドサイン観察

### ○「環境教育プログラム集の配付及び情報発信

本事業で検討・作成したプログラムを学校やビジターセンターなどで活用してもらい、広く環境保全意識の高揚を図るため、プログラム集を作成・配付するとともに、ホームページへの掲載を行う。

配付時期 平成19年3月下旬

配 付 先 学校、教育委員会、ビジターセンター、関係機関等

配付形態 印刷物及びCD-ROM

## ＜斜里町・羅臼町事業＞

### 1. 滞在型モデルツアー推進事業

#### 【知床エコラリーの実施】

昨年度より引き続きワーキンググループにより検討を進め、今年度は、3ヵ年事業の最終年度として、これまでの取組み、企画を包括する形で、エコツアー的な知床の立ち寄りスポット（隠れた名所、地域との交流、漁業・農業体験など）を個人旅行者に対して提案する企画として「知床エコラリー」を実施することとなった。

スタンプラリー形式であるが、観光客の参加を促す方法として、紙のスタンプを集めるのではなく、推奨スポットを訪れてもらい、その風景を携帯電話で撮影し、写真をメールで投稿すると、知床エコラリーの web サイトに掲載されるシステムを構築した。知床を紹介する web サイトを最新化することに参加できること、投稿者には抽選で知床の秋の味覚をプレゼントする、という形で参加への導入を行った。

2006年8月11日～10月20日に期間をプレゼント応募期間とし、ホームページとチラシ広告などにより参加者を募り、参加状況の分析を行った。ホームページへのアクセス数は11345 ページビュー（2006年8月11日～10月31日）であり、実際の写真つきメールを投稿した件数は、70 件であった。



羅臼灯台



ペレケ川河岸公園

冬季についても「知床エコラリー」ホームページを知床のエコツアーに関する情報提供サイトとして運用を継続した。

流氷シーズンの情報提供として、1月末よりウトロ、羅臼両地域での流氷情報を掲示している。流氷の着岸情報をスタッフが毎日投稿することにより、流氷の状況の変異を見ることができる形式で情報提供を行った（2007年2月末段階でも継続中）。

流氷情報の検索からリンクしたサイト来訪者に、知床のエコツアーの取組みをアピールする他、マナーの徹底など注意事項について情報発信も併せて行っている。

また、地域産業連携プログラムとして実施した、羅臼の冬のエコツアープログラム「流氷の海の漁業見学体験」に関しても、このサイトより紹介を行った。

## 【滞在型モデルツアー・ワーキング検討会】

### ■第1回滞在型モデルツアー・ワーキング 2006年5月12日（於：ウトロ漁村センター）

平成17年度の冬季モデルツアー実施報告と、今年度のモデルツアーの企画検討を行った。

冬季モデルツアーは、羅臼では漁業体験プログラムに90名、ワシウォッチングに7名の参加があった。斜里では、ウトロ地区のホテルに設置したエコツアーデスクで推奨エコツアーのプロモーションと知床の自然についての情報提供、ルール・マナーの普及活動を行った。

今年度は、3ヵ年事業の最終年度として、これまでの取り組み、企画を包括する形で、エコツアー的な知床の立ち寄りスポット（隠れた名所、地域との交流、漁業・農業体験など）を個人旅行者に対して提案し、参加者から写真と感想をメールで投稿してもらい、ホームページ上で公開、エコツアーリズムガイドマップを育てていくという企画を今後検討、実施することとした。

### ■第2回滞在型モデルツアー・ワーキング 2006年6月29日（於：羅臼町役場）

前回提案された、一般利用者参加型企画「知床エコラリー」について、具体的な立ち寄りスポットについての検討を行い、またホームページ上で投稿を受付、公開するシステムについて事務局作成によるフォーマットに対して意見を頂いた。

スポットについては、エコツアーリズムのコンセプトと利用の分散を図る狙いから、既存の観光地でないこと、知床らしいこと、知床の文化・産業・歴史などを学ぶことができること、利用者の増加によって自然環境や地域への悪影響が出ないことなどの条件を基に選ぶこととし、当初5カ所で開始して、秋にかけて随時追加していくこととした。

### ■第3回滞在型モデルツアー・ワーキング 2006年11月29日（於：ゆめホール知床）

8～10月に実施した「知床エコラリー」の実施報告を行った。冬季もメニューの変更を行い、知床のエコツアーリズム情報提供サイトとして継続して運用することとした。

また、昨年度に引き続き今年度も羅臼で実施する地域産業と連携したエコツアー「流氷の海の漁業見学体験」についての説明を行った。

## 【宿泊施設向け研修会】

世界自然遺産に登録された知床にふさわしい宿泊施設の経営方針などを学び、宿泊施設

のレベルアップを目的とした研修会を斜里町で2回、羅臼町で2回の計4回実施した。参加者数は下記の通りである。

### **第1回研修会「エコロジガイドライン」**

■2006年7月8日（於：ウトロ漁村センター） 参加者数11名

■2006年7月10日（於：羅臼町商工会館） 参加者数13名

講師：高山 傑（NPO 法人エコロジ協会代表）

省エネルギー・リサイクルの推進・地元資源の活用など、環境と地域に配慮した宿泊施設の経営指針をまとめた「エコロジガイドライン」に基づき、世界自然遺産に登録された知床にふさわしい宿泊施設の経営方針について学んだ。参加者からは、地域の食材を積極的に取り入れた献立作りをしていることや、自然観察プログラムの紹介を行っている宿など、これまでの取り組みを含めた質問もあがり、活発な意見交換の場となった。また、同時に他地域の事例の紹介や、世界自然遺産やルールやマナーに関する勉強会もあわせて行った。

### **第2回研修会「中小規模の宿泊施設ではじめる省エネ」**

■2007年1月19日（於：つくだ荘） 参加者数15名

■2006年1月20日（於：民宿本間） 参加者数6名

講師：高山 傑（NPO 法人エコロジ協会代表）

実際の施設を講師とともに参加者全員が見て回りながら、どのような点が改善できるのか、また改善した場合どれほどの効果があるのか、などを学んだ。講師からは今回実際に見学した施設の光熱費に関する円グラフから、冬の厳しい地域ならではの問題点やそれに対する有効な改善策などの提案があった。最近の電気機器は古いタイプのものとは比べて節電効果が非常に高く、初期投資はかかるが電気代が抑えられること、センサータイプのライトは設置の仕方や設定によって省エネ効果が大きく変わることなどが具体的に示された。参加した方々からは、「明日からすぐにでも取り組んでみたい」といった声や、「設備を買い換える際に大変参考になる」などの感想があがっていた。





## 2. 海外からの旅行者の誘致推進事業

### 【知床紹介英文ホームページの運営・管理】

昨年度作成した、知床を紹介する英文ホームページの更新作業を行った。知床の自然の紹介と世界自然遺産などについての情報を掲載しており、自然情報などは随時更新中である。また、海外からの旅行者が必要とする斜里町・羅臼町内の宿泊施設に関する情報を更新した。今後もガイド事業所の情報などを更新予定である。

## 3. その他

### 【エコツーリズム推進への取り組み紹介パンフレットの作成・配布】

知床におけるエコツーリズム推進の取り組みの紹介を目的としたパンフレット「知床エコツーリズム推進ガイド」を作成・配布した。知床自然センター・羅臼ビジターセンターで利用者に配布したほか、ウトロ地区のホテル等にも設置した。また、東京で開催された世界旅行博会場でも来場者に配布した。

